

難波西鶴と 海の道

【90】

森田 雅也

さて、ここまで書いてきたように、西鶴にはとても九州の話が多く、しかもどれも創作だとは思えません。おそらく作品の素材にしたくなるような情報提供が九州に存在していたのではないのでしょうか。西鶴には俳諧師時代から数人の弟子がいました。中でも西国は九州俳壇の要でした。

「中村西国(1647-1695)江戸時代前期の俳人。豊後(大分県)の人。上方で井原西鶴にまなび、延享6(1678)年、西鶴・前川自入とともに『俳諧詞はね』を出版。書画、彫刻、浄瑠璃などにもすぐれ、元禄4年江戸にでて、俳人や諸大名とまじわった。元禄8年6月6日死去。49歳。通称は島屋勝(庄)兵衛。別号に松葉軒、落安舎、卜幽など。著作に『雲

喰ひ』俳諧引簿集』など」(『日本人名大辞典』より)西国は大分県日田市の人です。先日、日田市を訪れて調査してきましたが、今から300年以上前の人物には、多くの調査すべき点が残っていました。

博多、長崎、熊本などに比べ、あまり語られることのない「日田」ですが、江戸時代は天領でした。徳川幕府の直轄地でしたから中央とのつながりも強く、特にこの地に九州の代官・郡代の陣屋が置かれたことから、行政・経済・文化の中心となりました。地理的にも東西南北を結ぶ要衝の地。大変にぎわいました。西国は、この地の大商人

俳諧師時代の弟子・中村西国

でした。尾花沢の鈴木清風がそうであったように、元禄期の大商人は船の物流ルートを利用して、京都、大坂、江戸を自由に往来しました。見聞も広まります。西国は、内陸部の「日田」から船に乗り、三隅川から筑後川を下り、有明海に出たのでしよう。博多に出るルートもあったようですが、海路上方に行き、西鶴の弟子となり、江戸の芭蕉にも会いに行っています。名も九州を表す「西国」。敵討を始め、数々の九州の情報は彼から取材したのでしょうか。

(関西学院大文学部文学言語学科教授)

九州に素材情報の提供者?